

長岡市・三島郡「生活科」活動報告

長岡市立上川西小学校 桑原 直哉

1 研修テーマ 「子どもの学びを育む生活科の単元構成や支援のあり方はどうあればよいか」

2 研修の概要

(1) 総会 4月24日(木) 会場 上川西小学校

○ 研修テーマを決定するとともに、昨年度の栖吉小学校での提案授業、協議、情報交換の内容について資料を基に振り返り、本年度の個々の実践に生かせるようにした。また、今年度の講演会の内容について意見交換をした。

(2) 研修会・講演会

○ 10月15日(水) 会場 上川西小学校

講師 新潟江戸しぐさ研究会 清水隆太郎 様

演題 「江戸しぐさに学ぶ 人の育て方」

○江戸しぐさとは

江戸のリーダーの商人たちが町の平和と商売繁盛を願って、よい人間関係を築き保つために工夫し、築き上げた考え方と行動で町人社会の道徳となったもの。江戸の人口約160万人、その内、町人・商人は5、60万人。しかし、居住面積は江戸の4分の1であったため、人と人との距離が近かった。それも要因となり、江戸しぐさは発展した。商人たちの「人を見抜く目」でもある。また、当時の江戸の識字率は男性90%、女性70%とされている。先進国であるイギリスは10~20%、フランスにおいては1.4%であった。日本の教育の誇るべきところである。江戸しぐさの生まれた要因。

○江戸しぐさの目的=立派な人間をつくること

「養育方針」・・・幼い時から心と言葉に誠を尽くし、嘘を言わないようにさせる。嘘は最低の行為。

・「江戸あそび」・・・「あそび」は「明日備」と書いた。加減を学ぶ大切なものと考えられていた。

・「結界わきまえ」・・・自分の領分を知る。「恥」を知ることによってわきまえを知る。

・「見て分かることは言わない」・・・「廊下を走るな」と、書いてあるのに「走るな!」と言うのは野暮である。見て分かることは言わないのが、江戸しぐさ。

・「あついつ!」と、鍋を触った子どもを見守って「おめでとう」と、言う江戸の親。熱いものを熱いと感じられる成長に感謝。現代は・・・「触っちゃダメ!」「ダメ!」

・自分の名前が嫌いな子ども・・・名前を呼ばれるのは怒られる時・・・だから嫌いになる子どもたち。名前を呼んで褒めることが大切な現代。

○気持ちのよい人間関係は挨拶から

・「ご免なさい」では心が澄まないから「澄みません」。「お金を払う」は、物を頂くだけでは申し訳ない気持ち。それを払うから「お金を払う」。心の誠を大切にする江戸しぐさ。

・「東の間つきあい」・・・レレレのおじさん「お出かけですか〜レレレのレ〜」は時泥棒をしない。

○表情は心の遊び

・江戸町人、商人の愛嬌、愛想はテクニック!

○してはいけないしぐさ~江戸のタブー~

・「水かけ言葉・戸閉めことば・手斧言葉」・・・学校での何気ない一言や、癖。子どもも教師も。

・時泥棒は大罪であった江戸。

○往来しぐさで他の人の迷惑にならない

・日本人の礼、マナーを重んじる心・・・バス停で1列に並ぶ日本人。震災で略奪行為をしない日本人。「なぜ、盗らないのか?」「私の心がそう言わないからしません。」

「学校しぐさをつくろう」

私達の学校は、こんな思いを・しぐさを大切にしてお〇〇を取り組んでいます!「大切にしたいこと・もの」今の時代にも通じる江戸しぐさは何か。自分の立場と、相手の立場と・・・いろいろな物差しをもって活動していきたい。